

Porteus とか Trinity とかの日本語翻訳

2011/9/10 おかの

宣伝

11月19日(土)、20日(日)に明星大学で開催される OSC 2011 Tokyo/Fall に Doc-ja Archive Project で出展し、翻訳 BoF をやります。翻訳等に関心のある方の参加をお待ちしています。GNOME や Ubuntu 方面で、カタカナ語の長音符の扱いが議論されていたりするので、訳語の統一問題とかやりたいですが、そっち方面から参加表明がないのが微妙っつーか。

<http://www.ospn.jp/osc2011-fall/>

<http://openlab.ring.gr.jp/doc-ja/>

Porteus とは

Slax から派生したディストリビューションです。以前は Slax remix という名前でした。というか、最初の方向性はちょっと違ったようで。

参考までに、過去のアナウンス等のやっつけ訳を最後につけました。

なぜ Porteus?

C80 で Linux User の付録に Porteus-ja がついてきたからに決まってるじゃないですか。

いつまでたっても新版がでない Slax に業を煮やしたはとちゃんが、新しい何かを探した結果、Porteus を選んだというかんじ?

Porteus-ja とは

オリジナルの Porteus には 32 ビット版と 64 ビット版がありますが、夏コミの CD は 32 ビット版をベースに日本語化しています。

夏コミの 1 週間前の例会で、はとちゃんから「今試してるけど、まだ動いてない」という報告があり、そのあとなんとかあったので、はとちゃんが前日夜から当日朝にかけて泣きながら CD-R を焼いてレーベルを印刷したというシロモノです。

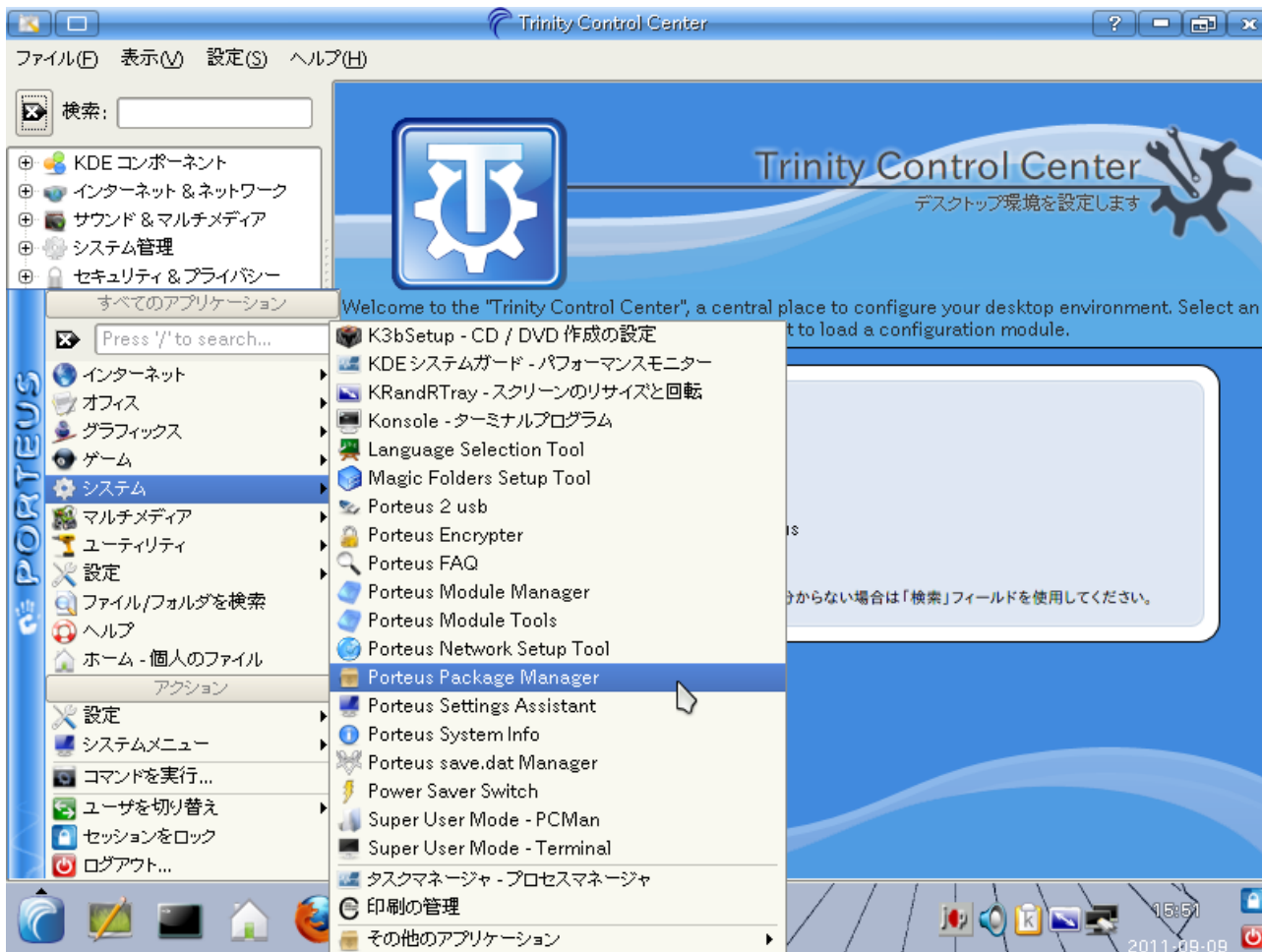
ということで、売り子は詳細を知らないまま¹コミケ本番に臨んだというアレなことになりました。まとはらさんがノート PC 持ち込みで VirtualBox 上でデモをしようとしたのですが、うまく動きませんでした。

メッセージの翻訳状況

デスクトップ環境は 64 ビット版と 32 ビット版で異なっており、64 ビット版は KDE4、32 ビット版は KDE3 ベースです。ふつーに日本語の表示や入力ができます。IPA フォントは 8 ビットにするとビットマップがきれいに出て重要らしく。

1 今回の付録は新しいディストロですよー」などと言って売っていたはいいものの、読み方すら最初はわからなかったという。

……が、一部メッセージは英語のままです。



これは KDE 翻訳プロジェクトが怠けたわけではありません(KDE3 では、これらに相当するメッセージは日本語に訳されています)。Porteus のデスクトップ環境は一見 KDE ですが、実は派生品の Trinity であり、そちらでメッセージが未訳となっているためです。

Trinity について

Trinity は KDE3.5 から派生したデスクトップ環境です。

<http://www.trinitydesktop.org/>

リポジトリは KDE の SVN リポジトリにあります。

<http://websvn.kde.org/branches/trinity/>

この web サイトには、Help Wanted! (手助け求む) The Trinity team is currently looking for help in the following areas: (Trinity チームでは現在、以下の分野で手伝ってくれる方を探しています)として、「Language translation/support」(言語対応と翻訳)と書いてありますが、翻訳プロジェクトのようなものはなさげです。

配布物では KDE 3.5.10 の翻訳メッセージをそのまま使っています。というか、ソースリポジトリにも KDE 3.5.10 の配布物 tarball がそのまま突っ込まれています。

<http://websvn.kde.org/branches/trinity/kde-i18n/>

一方、Trinity のメッセージ原文は「KDE」を「Trinity」に変更するなど、KDE 3.5.10 とは異なっています。これらは翻訳されていないので、原文のまま表示されるというわけです。

で、これを小江戸のみんなでなんとかしなイカ? というわけですよ。

メッセージの修正方法

「翻訳ってどうやるの?」という向きのために簡単に説明してみます。

KDE といえば Konqueror、Konqueror といえば KDE、というわけで、最初に手を付けるのは Konqueror です。



メッセージカタログのバイナリー (MO ファイル) は /usr/share/locale/ja/LC_MESSAGES/ 以下に置かれていて、Trinity はこれをもとに日本語メッセージを表示しています。たとえば Konqueror 用のメッセージカタログは konqueror.mo です。ここでは、既存の日本語訳を書き換えてみます。

MO ファイルは人間が読めなげなバイナリーなので、msgunfmt(1) で、人間が読める形式 (PO ファイル) にします。

```
% msgunfmt /usr/share/locale/ja/LC_MESSAGES/konqueror.mo mo \  
-o konqueror.po
```

PO ファイルの内容はこんな感じで、原文と日本語訳のセットがたくさん並んでいます。

```
msgid "Conquer your Desktop!"  
msgstr "デスクトップを征服せよ!"
```

このファイルを適当に書き換えてやります。

```
msgid "Conquer your Desktop!"  
msgstr "デスクトップを侵略するでゲソ!"
```

あとは、msgfmt(1) で MO ファイルを作って、元あった場所にインストールします。

```
# msgfmt konqueror.po \  
-o /usr/share/locale/ja/LC_MESSAGES/konqueror.mo
```

Konqueror を起動しなおすと、PO ファイルを修正したとおり、メッセージが変わります。



MO ファイルを全部書き換えれば、イカっぱい Porteus のできあがりです。なお、Porteus-ja に標準で入っている gettext の日本語メッセージは 112,714 個です。

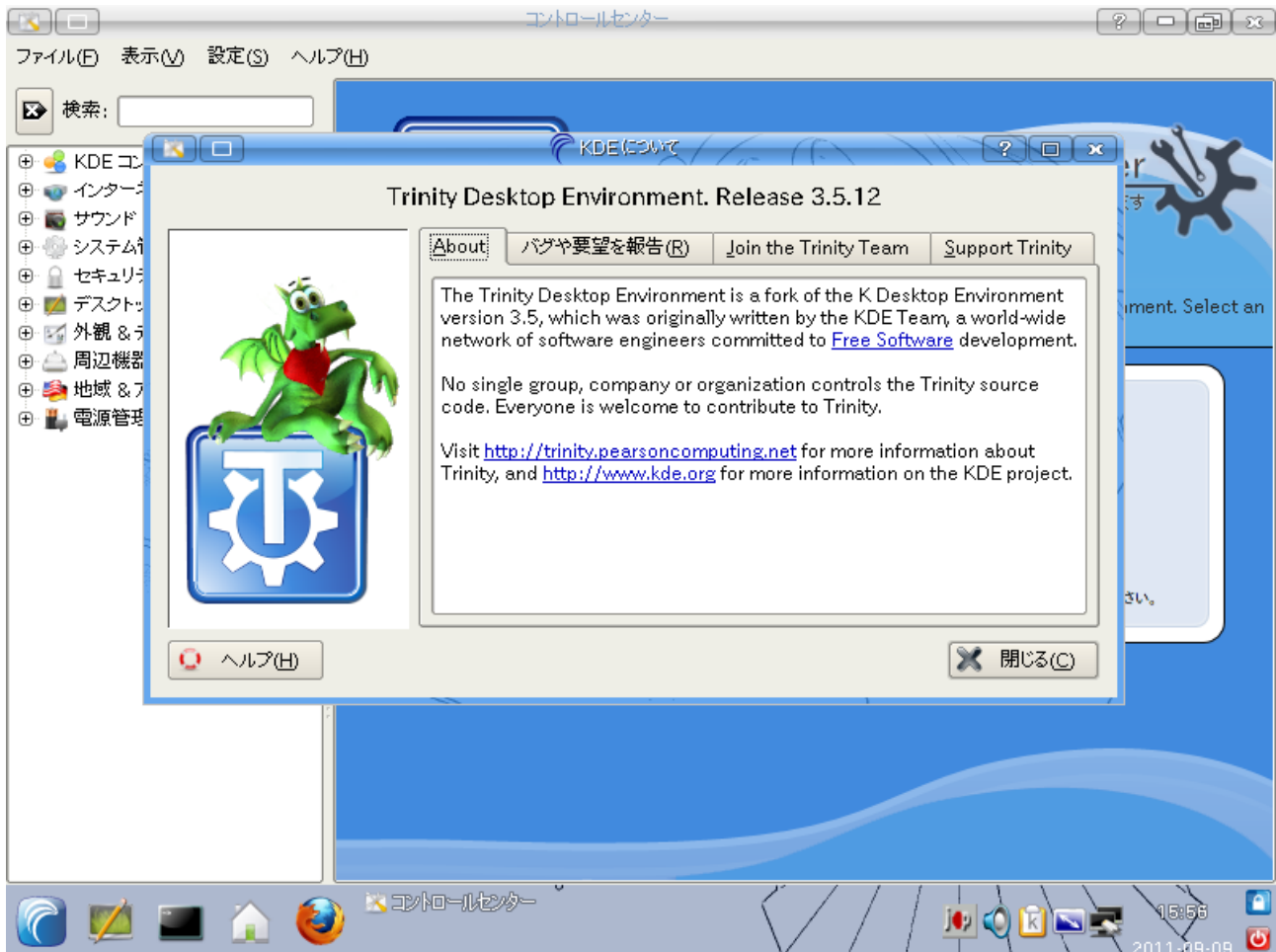
実際にやらなきゃいけないこと

Konqueror の例では、既存の翻訳メッセージを書き換えただけなので、このような方法でよいです

が、Trinity 翻訳をまじめにやろうとすると、この方法は使えません。

コメントや未訳メッセージなどは MO ファイルでは失われているので、まじめに Trinity 翻訳をなんとかしようとする、メッセージカタログの雛型 (POT ファイル) を作成して作業する必要があります。

ここでは、Trinity アプリケーションの「ヘルプ」メニューから「Trinity について」を選んだときに現れるウィンドウを例にとります。



KDE 3.5.10 ではこのウィンドウのメッセージはすべて翻訳されていました。

KDE 3.5.10 のソース : kdelibs-3.5.10/kdelibs/kdeui/kaboutkde.cpp

```
const QString text1 = i18n("
  <b>K Desktop Environment</b> is written and maintained by the
  KDE Team, a world-wide network of software engineers committed to
  <a href=\"http://www.gnu.org/philosophy/free-sw.html\">Free Software</a>
  development.<br><br>
  No single group, company or organization controls the KDE source
  code. Everyone is welcome to contribute to KDE.<br><br>
  Visit <A HREF=\"http://www.kde.org/\">http://www.kde.org</A> for
  more information on the KDE project. ");
```

KDE 3.5.10 メッセージカタログ : kde-i18n-ja-3.5.10/messages/kdelibs/kdelibs.po

```

#: kdeui/kaboutkde.cpp:34
msgid ""
"The <b>K Desktop Environment</b> is written and maintained by the KDE Team, a "
"world-wide network of software engineers committed to <a "
"href=\"http://www.gnu.org/philosophy/free-sw.html\">Free Software</a> "
"development."
"<br>"
"<br>No single group, company or organization controls the KDE source code. "
"Everyone is welcome to contribute to KDE."
"<br>"
"<br>Visit <A HREF=\"http://www.kde.org/\">http://www.kde.org</A> "
"for more information on the KDE project. "
msgstr ""
"「K デスクトップ環境」は KDE チームによって開発され、保守されています。世界中のソフトウェア開発者のネットワークが<a "
"href=\"http://www.gnu.org/philosophy/free-sw.html\">フリーソフトウェア</a>の開発に参加しています。"
"<br>"
"<br>KDE のソースコードは特定のグループや企業、組織がコントロールしているのではありません。どなたでも自由に KDE の開発に参加していただけます。"
"<br>"
"<br>KDE プロジェクトの詳細については <A HREF=\"http://www.kde.org/\">http://www.kde.org</A> "
"をご覧ください。"

```

Trinity 3.5.12 のソース : kdelibs/kdeui/kaboutkde.cpp

```

const TQString text1 = i18n(
"The <b>Trinity Desktop Environment</b> is a fork of the "
"K Desktop Environment version 3.5, which was originally written by the KDE Team, "
"a world-wide network of software engineers committed to <a "
"href=\"http://www.gnu.org/philosophy/free-sw.html\">Free Software</a> "
"development.<br><br>No single group, company or organization controls the "
"Trinity source code. Everyone is welcome to contribute to Trinity.<br><br>Visit <A "
"HREF=\"http://trinity.pearsoncomputing.net/\">http://trinity.pearsoncomputing.net</A> for more information "
"about Trinity, and <A HREF=\"http://www.kde.org/\">http://www.kde.org</A> "
"for more information on the KDE project. ");

```

Trinity 3.5.12 のメッセージカタログは KDE 3.5.10 のままなので、このようにメッセージの原文が変わると、(そのメッセージの翻訳がないので) 表示が原文になってしまうというわけです。

KDE を Trinity に置き換えたメッセージもけっこうありますが、この例のように「KDE」のままの部分もあるので、機械的に置換すればいいというわけでもありません。

具体的な手順

Trinity のソースからの構築方法は、以下のページにあります。

<http://www.trinitydesktop.org/wiki/bin/view/Developers/HowToBuild>

Trinity 3.5.12 の配布物 kdelibs-3-5-12.tar.gz を取ってきて展開します。configure したのちに、admin ディレクトリーにある cvs.sh を実行すれば POT ファイルができます。やりたいことは、C++ などのソースからメッセージを抽出するだけですが、Trinity の構築に必要なライブラリー等が必要だったりしてアレです。

以下、Ubuntu 11.04 での作業例ですが、これで合っているのかは激しく謎なので詳しいかた教えてください。

```
# apt-get install automake libtool kdelibs4c2a libx11-dev
$ tar xvzf kdelibs-3.5.12.tar.gz
$ cd kdelibs
$ cp -pR /usr/share/libtool/config/ltmain.sh admin/ltmain.sh
$ cp -pR /usr/share/aclocal/libtool.m4 admin/libtool.m4.in
$ make -f admin/Makefile.common
$ ./configure --prefix=/opt/kde3 \
--includedir=/opt/kde3/include/kde \
--mandir=/opt/kde3/share/man \
--infodir=/opt/kde3/share/info \
--with-extra-libs=/opt/kde3/lib \
--sysconfdir=/etc \
--localstatedir=/var \
--libexecdir="\${prefix}/lib/kdebase-kde3" \
--disable-rpath \
--with-xinerama \
--enable-closure \
--without-arts
$ mkdir po
$ sh admin/cvs.sh package-messages
```

上記ページの説明どおりに configure すると、aRts を要求されますが、すでに Ubuntu のパッケージはないので、--without-arts を追加しました。つーか、ここは Trinity で作業するのがヨサゲ？

これで kdelibs.pot ができあがりますので、KDE 3.5.10 の日本語メッセージカタログ kdelibs.po とマージします。

```
% msgmerge kdelibs.po kdelibs.pot -o trinity-kdelibs.po
```

マージされたメッセージカタログを適当に編集します。

```
#: kdeui/kaboutkde.cpp:34
msgid ""
"The <b>Trinity Desktop Environment</b> is a fork of the K Desktop "
"Environment version 3.5, which was originally written by the KDE Team, a "
"world-wide network of software engineers committed to <a href=\"http://www."
"gnu.org/philosophy/free-sw.html\">Free Software</a> development.<br><br>No "
"single group, company or organization controls the Trinity source code. "
"Everyone is welcome to contribute to Trinity.<br><br>Visit <A HREF=\"http://"
"trinity.pearsoncomputing.net/\">>http://trinity.pearsoncomputing.net</A> for "
"more information about Trinity, and <A HREF=\"http://www.kde.org/\">>http://"
"www.kde.org</A> for more information on the KDE project. "
msgstr ""
"「Trinity デスクトップ環境」は K デスクトップ環境 (KDE) バージョン3.5 から派生しました。"
"KDE は、もともと KDE チームによって開発されたもので、世界中"
"のソフトウェア開発者のネットワークが<a href=\"http://www.gnu.org/philosophy/"
"free-sw.html\">フリーソフトウェア</a>の開発に参加しています。<br><br>Trinity の"
"ソースコードは特定のグループや企業、組織がコントロールしているではありません"
```

```
"ん。どなたでも自由に Trinity の開発に参加していただけます。<br><br>Trinity プロジェクト"
"トの詳細については <A HREF=\"http://\"
"trinity.pearsoncomputing.net/\">http://trinity.pearsoncomputing.net</A> を"
"、KDE プロジェクトの詳細については <A
HREF=\"http://www.kde.org/\">http://www.kde.org</A> "
"をご覧ください。"
```

MO ファイルにコンパイルしてインストールすれば、こんなふうに日本語表示になります。



一人でやるなら、しこしこ作業すればよいですが、Trinity のような大規模なソフトをみんなでやろうとすると、進捗管理とか提出とかを自動化しないとたぶん死ねます。

それ以前に、冬コミ以降も Porteus-ja を出すのかどうかはほとんどちゃん次第なので、作業しても (Linux User 的には) 無駄になっちゃう可能性もありますが、気にしない方向で。

てゆか、Trinity 以外に Porteus 固有のメッセージがあったり、PO ファイル以外にもオンラインヘルプとかマニュアルとかあったりして、ほかにもやることはいっぱいあります。